

臨床でよく出会う 痛みの診療アトラス

Steven D. Waldman 原著

太田光泰, 川崎彩子 訳

＜書評者＞ 仲田和正（西伊豆病院院長・整形外科）

この本は運動器の痛みを網羅的に集大成した大変美しい本です。特に筋筋膜疾患や絞扼性神経障害に重点が置かれています。ほぼ全ページにカラー図解があり大変わかりやすい本です。私自身、今まで知らなかった病気がたくさんあるのに大変驚き、愛用のポケット解剖書にせっせと書き写した次第です。他にこのような類書を私は知りません。

舌骨症候群とか、ゴーグルの眼窩上神経圧迫で起こる前頭部痛 (Swimmer's headache), スーパーでもらうビニール袋に商品を詰め込んで2, 3本の指で提げることによる指の麻痺 (plastic bag palsy) など「こんな疾患があるの

か!」と大変驚きました。その多くは知識として知っているだけで診断できる (snap diagnosis) 疾患ですが、知らなければ診断できません。一通り読んで、こんな疾患があるんだと知っているだけでも良いと思います。

国内の教科書ではテニス肘として一括される上腕骨外側上顆炎も肘筋症候群, 回外筋症候群, 腕橈骨筋症候群と細分化されています。一般の整形外科書では、ここまでの疾患は到底網羅できていません。

以前, ある都市の外科開業医の集まりで整形外科救急の講演を依頼されたことがありました。なぜ整形疾患の知識が必要なのかお聞

きたところ, 外科で開業しても外来に来る疾患のほとんどは整形疾患であり腹部疾患はたいてい病院に行ってしまうほとんど診ることがないとのことでした。整形疾患は診療所レベルでは大変多い common diseases であり総合診療には必須の科目です。私のへき地の経験では, 内科, 小児科, 整形外科を研修しておけばへき地で遭遇する疾患の8, 9割くらいに対応できると思っています。

Common diseases を広く深く知って知識を網羅しておくことは重要です。この『臨床でよく出会う痛みの診療アトラス』は, 日本の臨床レベルの底上げに大変役立つ本だと思いました。ぜひ, ご購読をお勧めします。

●B5 頁464 2014年
定価: 本体9,500円+税
[ISBN978-4-260-01765-7]
医学書院刊